

WE THINGS

# GOOD MANNERS DOG TRAINING

はじめに

第二章

犬の世界へ

犬を見る

犬の言葉



## 第二章 犬の世界へ

「犬は群れで生活する動物。」というのは有名な話ですね。  
つまり社会性があるという事がわかります。

ちなみに「社会性」と言う言葉を調べてみると…他人との関係など、  
社会生活を重視する性格。また、社会生活を営む素質・能力。

続いて「社会」と言う言葉を調べてみると…人間の共同生活の総称。  
また、広く、人間の集団としての営みや組織的な営みをいう。

——と、調べた結果は「人間」となっていましたが、「人間」の  
所を省くとわかりやすくなるかと思います。

この社会性、とりわけ犬は長けているように日々感じます。  
さらには人間の言葉を使う訳ではないのに、その言葉を行動と関連  
付ける事ができたりと、協調性も優れているのですね。

ある日、突然人間の家族に迎えられ、初めて会う目の前にいる人間  
に「オスワリ！」と言われる犬がいます。

なんとなく察して…とか、言葉を発している人間の勢いに圧倒され  
て…等で結果的に犬が「オスワリ」をするという光景を目にする事  
があります。

このように初めて会う犬に「オスワリ」ができると「かしこい犬」  
というイメージを持たれる方を見かける事があるのですが、「かし  
こい犬」については一旦置いておいて、「オスワリ」をひも解いて  
みます。

私たちが言う「オスワリ」は、犬の前脚2本は真っ直ぐのまま、後  
ろ脚2本が折り畳まれ、お尻が地面についている状態の事を指して  
います。



これは人間が思っている「オスワリ」であって、「オスワリ」という言葉を初めて聞いた犬は、生活の中で自らその状態になることはあっても「オスワリ」という言葉の行動を自分がしているなんて思っている犬はいないでしょう。  
それは「オスワリ」という言葉を、当然ですが知らないからです。

しかし、人間側はなぜかあたり前の如く知ってるものとして犬に要求しますが、そう考えると犬にとって謎の言葉を発して「オスワリ」したら「かしこい犬」で「オスワリ」しなければ「かしこくない犬」と決めつけてしまうのはあまりに人間の勝手な判断だなあと私は思います。

少し逸れましたが、知らない言葉を聞いても状況や雰囲気を感じてまで、自分と関わりのある人間を理解しようとしてくれる所は、この社会性や協調性の成せるものなのですね。

私は日本人ですが、言葉が通じない外国の方の集団の中に突然放り込まれ、その方達から一方的に何かを話しかけられたらまずはパニックに陥ると思います。

ただ、落ち着かないと！という思いから次第に状況を判断しつつ何とか理解しようとするでしょう。

これも社会性の部分だと思うのですが、人間の言葉がわからない犬は常にその状況に置かれているのだと思うと、なんとも大変な生活を日々過ごしていますね。

ましてや犬と人間は生き物の種として異なる物同士な訳ですから、それは想像以上に大変なのでしょう。

でも、犬たちを見ていると、犬は人間の事を理解しようと、常に努力しているのだと感じます。

犬は先述したように本能の部分が長けているため、自分が生きて行く上で必要だからそうしているのではあるのですが、ただ、私たち人間は犬のその優れた協調性や社会性に甘えすぎているのではないかと感じます。

近年、犬や人間と暮らす動物たちは<ペット>から<家族>という呼ばれ方の動物に変わってきていますね。

人間だけの家族の場合で考えてみると、「黙ってこちらの言う事を聞けば良いんだ！」なんて言ったら今の時代、色んな意味でも注目を集めます。

ただ、こと家族であるはずの犬となると、「とにかく言う事を聞くもんだ、静かにしないといけない、走っちゃいけない、飛びつっちゃいけないetc...」と、当然かのように決めつけられてしまいがちです。

なんとも実にたくさんの人間社会の決まり事の中で生きていますよね。

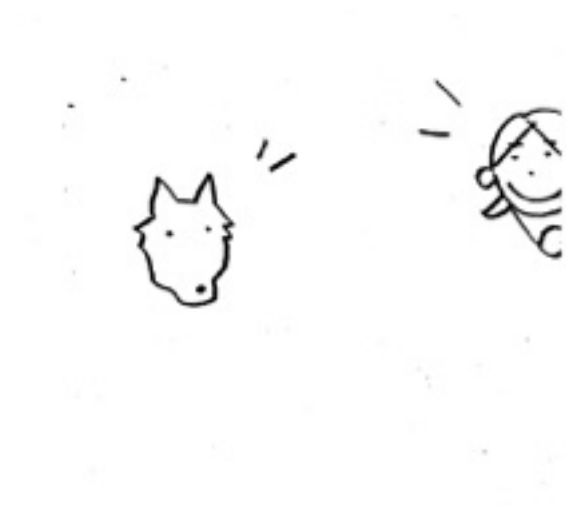
こう見ると<家族>という割には犬側の立場になって考える機会が少ないのかなと感じています。

しつこいようですが、人間社会の決まり事というのは犬はそもそも知らない、わからない事です。

私たち人間側の様々なルールを犬に要求していると認識した上で、もう一度犬の事を考えてみると、私は今までに見えなかった事が新たに見えてきました。

「犬に選択肢を」という言葉を知ったとき、とても衝撃的でした。犬の考える力と意思を尊重するという考え方です。

なんでもかんでも犬の言うことを聞く事とは意味が違いますが犬の行動や気持ちを勝手に作って決めないと言う事です。



<家族>だからこそ、もっと犬の感じている事や考えている事に寄り添い、互いを理解しようと同じ方向に歩いていく事ができればもっと肉厚な関係性で一緒に過ごす事ができると思います。

そのためにはもっと犬を知ることが重要だと感じます。

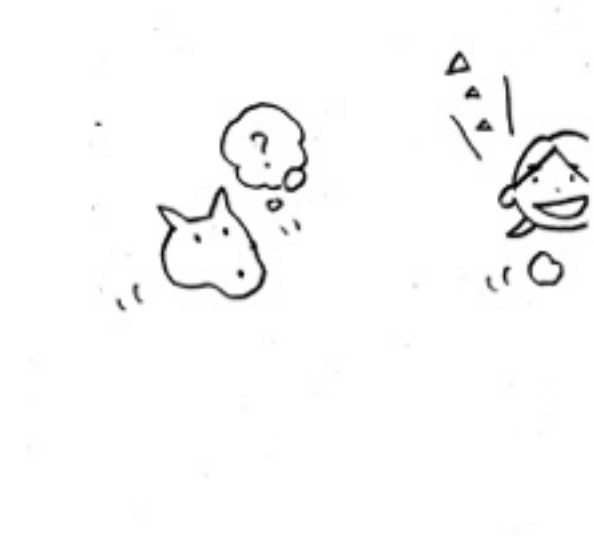
今までとは違う角度から犬を知ることと一緒に始めてみませんか？

## 犬を見る

という事で突然ですが、まずはご愛犬の観察をしてみましょう！

現在犬と暮らしていない方は、近くで出会う犬をじっと見つめず遠目から、もしくはお知り合いの犬を是非観察してみてください、今までは気付かなかった新しい発見があり、とてもおもしろいですよ！

- ・歩き出すとき右と左どちらの前脚が先に出るか
  - ・寝るときの格好／場所
  - ・物を確認するときは鼻から確認するのか前脚から確認するのか
  - ・好きな食べ物
  - ・苦手な食べ物
  - ・好きなおもちゃ
  - ・惹かれないおもちゃ
  - ・好きな場所
  - ・行きたくない場所
  - ・耳の向きが変わるのはどんな時？  
>その時どこに向いている？
  - ・尻尾の位置が変わるのはどんな時？  
>その時尻尾の位置はどこにある？
- etc...



書ききれないほど着目点がありますが、こういう犬の観察をする癖がつくと今犬が何をしようとしたのか、次に何をするのか、今何を感じたのか等といった事を判断する材料が増えていきます。

そして勝手に「こう思っているだろう」や「こうするはず」だとかを人が決めつけずに、まずはその瞬間の様子を切り取ってみて見る事で、想像では思いつかなかった犬の考えている事が見えて毎日楽しいです。

## 犬の言葉

人間側の言葉のお話を少ししましたが、犬もたくさん言葉を持っています。

ただ、その表現は人間とは違います。

「吠える」も、もちろん言葉のひとつですね。  
それ以上にからだの全てを使って話してくれています。

なので「犬はしゃべらない。」というのは、その間に「人間の言語で」という言葉が抜けていると私は思っています。

目、耳、脚の動き、尻尾の動き、からだの向き、からだの筋肉の堅さ、等いわゆるボディランゲージですね。  
そしてからだを使いながら犬は会話をしているとわかると、もっともっとどんな事を話しているのか私はとても知りたくなります。

【犬を見る】でも述べましたが、本当にからだの全てで言葉を発しているのです、是非ご愛犬に穴が開くんじゃないかと思うぐらい観察してみてください。

私も日々観察していますが、新しい発見が常にあって楽しいです。



実際に犬に聞いたわけではないので解釈が絶対ではないでしょうが、憶測や擬人的なことではなく、科学的な視点での解釈を基にし、犬の考えている事や感じた事がよりわかってくるとそれに対して私たちもしてあげられる事が増えます。

そうすると、犬からは「この人は自分の事を理解しようとしてくれている／理解してくれている」と認識してくれると私は思っています。

逆に人間の誤解によって、本当は犬が「う～ん、そうじゃなくて。」と思っている事を人間側は知らずによかれと思ってやった結果、犬からは「もう…この人はなんでわかってくれないんだろう」とがっかりされるんだろうなとも思っています。  
こういった事って、人間同士でも意外とありますよね。

余談ですが、我が家での出来事の例を挙げると、私は風邪をこじらせてしまい、声が出なくなり、熱が高くてどうにも動けない事がありました。

とてものどが乾いたのですが声も出ないし、手も動かせないぐらいにつらいので苦しいながらも飲み物を持って来てほしい事を一生懸命目で訴えました。

すると家族は「わかった、ちょっと待っててね」と部屋を出て行き、戻ると私に優しく「つらいね、でもすぐ良くなるよ。冷たいの持ってきたからね、はいどうぞ」と、冷え冷えの飲み物ではなく、冷え冷えの濡れタオルをおでこの上にのせてくれました。

…嬉しいんだけど、ありがたいんだけど「そうじゃなくて…」という気持ちになりました。

ずーっと一緒に暮らしている人間同士の家族間でも、伝える手段が変われば意外と違った解釈をしてしまうものです。



少し逸れましたが、やっぱり犬からがっかりされたくないですし、  
良き理解者として私の事を認識されたいです。  
そのためには、犬を知らないとは理解できないです。

「この人は自分の理解者だ」と犬に認識してもらう事で少しでも犬  
に信頼をしてもらえよう、より多く犬の言葉を知る必要があると  
私は思っています。

何よりも犬の言葉を知るのは楽しいです！

そして、同じように楽しいと思う方がもっと増えると、結果として  
犬たちの暮らしも楽しいものになるだろうなと思っています。  
犬も人も楽しいがやっぱり1番です！

## 犬と暮らす

「犬のすることに無駄は無い」という言葉を教えてもらった時、な  
んて深みのある言葉だろうと思いました。

何度か出てきていますが、行動の原点にあるものは本能です。  
犬の色々な行動は（人間からすると「問題行動」とよばれるものも  
含め）その本能に沿っている事なのですが、現代の社会では犬の望  
みをそのまま叶えてあげる事はできないのが現状です。

そんな中、犬と暮らす＝共に生きて行く上で、共通のルールを設定  
し、共通言語を作る事でコミュニケーションを取る方法があると知  
りました。

犬の望みを叶えてあげたり、こちらの望みを伝えたりできるとても  
魅力的なコミュニケーション方法だと思い、共通言語（※1）を私も  
取り入れる事にしました。





(※1) 共通言語とは

言葉の意味を調べると…それぞれ異なる言語を用いている集団の間で、相互に意志を通じ合うことのできる言語。一とありました。つまり、言葉の表現が違う犬と人間の間で意思を通じ合わせるために使う言語としてこの中ではお話していきます。

(※) e-Bookの記載内容は科学者である、レイモンド・コピンジャー博士を始めとした犬の研究内容を基にした考え方で、私がこれまでに教わった事や実際に行った事、感じた事等を記載しています。